

一つのことを深く

何にも通用しない本時の目標

〈授業改善のポイント2〉

本時で扱う内容が多すぎるのはだめ。やることを絞って、一つのことを深くやる。
何にでも通用する「本時の目標」は、何にも通用しない。

「大人になれなかった弟たちに・・・」の授業構想の第一次案における「本時の目標」は、次の通りでした。

初めて泣くまでは、感情を表に出さなかった母のつらくたえる気持ちを、母の行動と言葉から読み取り、初めて泣いたときの母の思いを想像することができる。

この目標の何が問題なのでしょう。それは、以下の3点です。

- やることが多く、これでは深まらない。
- 概念が砕かれておらず、着目させたいキーワードが書かれていない。
- 抽象的である。

改善の方向性として、次のことが考えられます。

- 「こうやってみる」というチャレンジが表れるようにする。
- できるだけ具体的に、この時間にしか通用しない目標を設定する。

やるべきことをどう絞るか

「大人になれなかった弟たちに・・・」では、「大きくなっていったんだね」を取り上げ、「ね」に着目します。どんな気持ちでだれに言っているのか、「ね」に込められた母の気持ちはどうか、万感の思いを込めた「ね」であることなどについて考えていきます。

「あなたの読み方は甘い、浅い」という実感をもたせることも大切です。「魚を育てる森」では「腐植土って何?」「土って腐るの?」「腐植って何?」などと投げかけ、「先生や友達に説明できるように」と指示することで、自分の読みが足りないことを実感させます。生徒の追い込み方は具体的にしていきます。

また、「腐植土」の役割については、一つは全体で扱い、もう一つは生徒に任せてみる、という方法をとることで、教師主導の読みではない、生徒の主體的な読みを促すことができます。

「スーパービート板」における「本時の目標」は、教材研究の結果、以下のように絞り込まれていきました。

「不思議なこと」に着目し、班での話し合いをもとに全体で意見を交換し合うことにより、クラスメートの「当たり前のこと」が「不思議なこと」に思える心について、自分の言葉でまとめることができる。